



## 松坂屋の広告

平成28年2月27日(土)→5月24日(火) 開場時間:10時~18時  
ただし、最終日5月24日(火)は17時閉場

日本の広告は、店先に品物を並べて見せることにはじまり、次第に暖簾や看板が用いられるようになりました。世の中が安定し商業活動が活発になった江戸時代には、それまでの暖簾などに加えて、より積極的な広告方法として現在のチラシにあたる引札が配られるようになり、さらに錦絵が登場すると広告合戦は華々しく展開していきます。

松坂屋の引札は、5万5,000枚を配り、「江戸中の家数を知る呉服店」「家のあるだけは呉服屋配って来」と、川柳に詠まれた安政3(1856)年の引札をはじめ、上野店、名古屋店での見世開きの折などに配られています。明治の世になり欧米の新しい文化が輸入されると、広告方法にも新しい様式が取り入れられました。明治以降の広告を最も特徴づけるものは新聞広告であり、松坂屋も新築開店の広告、セール広告、店員募集など様々な新聞広告を利用していきます。

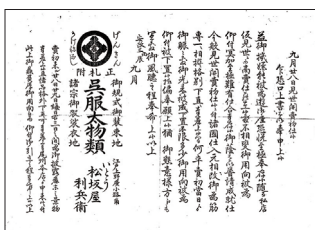
そして大正時代には、経済の好調と印刷技術の向上を背景に、宣伝広告活動がより活発化し、その手法も多様化していきます。広告の美術化が図られる中、松坂屋は「台麓<sup>たいろく</sup>図案会」を創設し、当時のデザイン界に新風を吹き込みました。

社会の変化に合わせて広告方法が新しさを求めていく中で、松坂屋の広告もその流れに沿い、趣向を凝らしていきます。

今回の企画展では、暖簾、引札に始まる江戸時代から、広告界が爛漫と花開いた昭和初期までの松坂屋の広告方法の変遷をご紹介します。

## 安政3年の引札と錦絵

安政大地震による火災で焼失した上野店は、安政3(1856)年に店舗を再建。このとき江戸中に引札を配って宣伝し、歌川広重の「下谷広小路」は見世開きにあわせて売り出されました。



安政3年の引札



「名所江戸百景下谷広小路」  
歌川広重



1611 慶長16
1659 万治2
1736 元文元
1740 元文5
1768 明和5
1772 明和9
1784 天明4
1789 寛政元
1792 寛政4
1813 文化10
1834 天保5
1852 嘉永5
1856 安政3
1875 明治8
1877 明治10
1881 明治14
1882 明治15
1887 明治20
1890 明治23
1900 明治33
1901 明治34
1905 明治38
1906 明治39
1907 明治40
1910 明治43
1912 大正元
1914 大正3
1916 大正5
1917 大正6
1918 大正7
1920 大正9
1922 大正11
1923 大正12
1924 大正13
1925 大正14
1928 昭和4
1932 昭和7
1933 昭和8
1935 昭和10
1937 昭和12
1938 昭和13

伊藤家初代祐道、清須より名古屋本町へ移住、呉服小間物問屋「伊藤屋」を開業
2代祐基、本町より茶屋町へ移転、初めて次郎左衛門を称す
呉服太物小売りに転換
尾張藩の呉服御用となる
上野松坂屋を買収し、江戸へ進出
「いとうまる」暖簾明細史料にみられる
上野店 明和大火類焼後の見世開き【引札配布】
暖簾の明細書を書き留める
名古屋店 新築落成開店【引札配布】
上野店 全焼後の見世開き【引札配布】
上野店 類焼後の見世開き【引札配布】
名古屋店 商号を「伊藤屋」から「いとう」へ変更
名古屋店 美濃・三河・遠江・飛騨・伊勢・信濃へ【法衣の引札配布】
上野店 安政大地震全焼後の見世開き【江戸中に引札配布】
恵比須屋を買収し、新町通に大阪店を開店（1909年に閉鎖）
上野店 上野公園の第1回勸業博覧会に出展
上野店 上野公園の第2回勸業博覧会に出展
名古屋店 業界初の夏物売出し
上野店 夏物売出し
上野店 上野公園の第3回勸業博覧会に出展
名古屋店 商号を「いとう」から「いとう呉服店」へ変更
上野駅に広告看板を掲出
名古屋店 業界初のファッションショーを行う
名古屋店 初めて陳列立売りをを行う
PR誌「衣道楽」創刊
名古屋店 東店1階にウィンドー、西店2階にショーケースを設ける
上野店改装 陳列式で開店
名古屋店（茶屋町）300年記念大売出し
株式会社「いとう呉服店」創立
PR誌「モーラ」創刊
名古屋店 栄町に新店舗開店
デパートメントストア「いとう呉服店」営業開始
新聞広告で店員募集
大正博覧会出展、染織品が金メダル、陳列装飾が銀杯受賞
上野店 新店舗開店
名古屋店、上野店 各階陳列場中央部の天井に表示ランプを設置
名古屋店 エレベーター新設。増改築開店
台籠図案会創設、第1回作品展開催
平和記念東京博覧会出品物、ならびに陳列装飾に対し名誉メダル受賞
大阪店 日本橋で営業再開
上野店 関東大震災で類焼
銀座初のデパート 銀座店開店
各店の商号を松坂屋に統一
名古屋店 南大津町に新店舗開店
上野店 新築開店。日本初のエレベーターガール登場
PR誌「マツサカヤ」創刊
『松坂屋美術』創刊
静岡店 新築開店
マツサカヤマンガ第1回発行
銀座店 開店10周年記念大売出しの宣伝に飛行機使用
かな文字「マツサカヤ」、ローマ字「MATUZAKAYA」の店名文字制定
PR誌「新装」創刊
名古屋店 増改築工事全館落成
「明日の広告博覧会」上野松坂屋で開催



松坂屋の暖簾



寛政元年の引札



「東都見立呉服屋八景 上野広小路 松坂屋の晩鐘」



「第2回博覧会一覽之図」



「モーラ」創刊号



「デパートメントストア」いとう呉服店 開店披露広告



台籠図案会 大賞作品



マツサカヤマンガ

1469頃 文明
1532頃 天分
1596頃 慶長
1661頃 寛文
1683 天和3
1716頃 寛延
1748頃 天明5
1830頃 天保5
1871 明治4
1872 明治5
1873 明治6
1876 明治9
1885 明治18
1888 明治21
1893 明治26
1897 明治30
1903 明治36
1914 大正3
1916 大正5
1922 大正11
1924 大正13
1928 昭和3
1929 昭和4
1935 昭和10
1937 昭和12
1938 昭和13

絵巻物作品中に商家の看板が見える
店に屋号をもじった暖簾を下げる家現れる
下げ看板、屋根看板が多くなり、水引暖簾、長暖簾を下げる店などが現れる
商家に水引暖簾を下げるのが普及
呉服越後屋「現銀掛け値なし」の引札初めて配布
引札、春秋2回出ははじめる
長暖簾、日除けとして盛んに利用される
錦絵、役者口上等の広告盛んになる
日本で初めての日刊新聞、横浜毎日新聞創刊
「広告」という文字、横浜毎日新聞に初めて登場
ウィーン万国博覧会 名古屋城金鯉出品
東京日日新聞に越後屋・白木屋が売出し広告
鉄道馬車が社内広告開始
新愛知新聞創刊
マッチ広告行われる
商店のショーウィンドー目立ちははじめる
第5回勸業博覧会でイルミネーションを点する
東京大正博覧会開催
映画広告活発になる
平和記念東京博覧会開催
アドバルーンの広告揚がる
銀座、新宿等ネオンサインに彩られる
百貨店の広告盛んにおこなわれる
折込広告盛んに行われるようになる
名古屋汎太平洋博覧会開催
色刷り広告増加